

座標軸

企業内起業家を育てよ 大沼 瑞穂氏（自民党）

―新卒の一括採用方式をどう
見ていますか。

「資格や経験がなければ就職
できない欧米のジョブマッチ式
は若者の失業率が高い原因に
なっている。一括採用は企業が
可能性にかけて人材を採り、会
社で育てていく方法で、良い側
面もある。しかし、『失われた
20年』の中で企業は教育に時間
とお金をかける余裕がなくなっ
ているのも事実だろう」

「今は入社以降の教育格差が
出てきている。昔は女性が一般
職で就職しても、福利厚生が豊
かで教育もしっかりしていた。
ところが一般職が派遣社員や
パートに置き換わって、教育が

他の世代に比べて失業
割合が増加するなど、若
者「ブラック企業」も社会
指導監督に乗り出した。
た。

（聞き手：



大沼 瑞穂氏
（おおぬま・みずほ）

慶大大学院修了。NHK記者、
内閣府上席政策調査員、党女
性局次長。34歳。参院山形選
挙区。当選1回

手薄になっていくように思う。
同一労働同一賃金は徹底しなけ
ればならず、企業が教育まで負
担できなければ、国がサポート
する体制にしていくことも考え
なければいけない」

―労働者派遣法の在り方、現
状をどう見えていますか。

「派遣法に対する厳しい評価
を聞くこともあるが、近年女性
の就業率が上がっているのは、
派遣で女性が労働市場に入っ
てきているからだ。夫が正社員で
働いていて、妻がパートや派遣
で働けるようにするのがもとも
との趣旨だが、今は必ずしも結
婚しているわけではない。1人
で生活するにはパートや派遣の
収入では足りなくなっている。
契約社員、派遣、パートから始
まって、正社員になりたい人を

フォローしていく必要がある」
「非正規という言葉は差別的
だと感じているが、派遣やパー
トを認めなければ労働市場は柔
軟性を失い、非効率に陥ってし
まう。多様な働き方が認められ
ることが必要で、『フルタイム
でない」と駄目』という職場が増
えるのはマイナスだ。非正規と
いう言い方が社会にまん延した
のは、将来は正社員になる約束
があつて入社したのに、ずっと
契約社員のままでいるといった
ことが多かったからではない

か。賃金を抑えるために単純作
業だけを任せ、うまくいかなか
ると企業は海外へ出ていく。
その責任は企業や国にある」
「打開策の一つは、会計、経
営能力、対外交渉など、働く人
一人一人がスキルを持つこと

だ。国は中小企業サポートのよ
うな形で支援する制度を設け、
これを利用してながら企業は社員
をスキルアップさせる。高度成
長時代に大手企業の中で働く人
のサラリーマン化が進んだが、
昔は皆個人事業者のようなもの
だった。同様に今、新たな素材
を発掘して起業できる能力を支
援し、企業内起業家を育て
ることが大事だと考えている」

―「ブラック企業対策は。
『みなし役員』のような立場
にして残業代を払わないなどは
許されない。多様な働き方の中
で夜働く人が多くなった。健康
診断や適切な賃金支払いといっ
た点はよりきめ細かに実施され
なければならず、昼間働いてい
る人以上に配慮が必要だ」

「女性の就業率は高くなった
とはいえ、使い捨ての形になる
のは避けなければいけない。経
営者側の視点と労働者の視点は
違うので、立法府、行政がしつ
かりと規制をかけ、義務付けて
いかなければいけないだろう」